

観光需要回復に備えた施策方針【概要版】

策定の趣旨

○新型コロナウイルスの感染拡大によって落ち込んだ観光需要の回復の動きを確実に取り込んでいくため、やまなし観光推進計画に基づき、いま対応すべき施策を整理するもの

施策方針 (R3-R4)

< 施策の方針 >

観光産業の高付加価値化を加速させることにより、様々なこだわりを持つ観光客の期待に応えられる観光地とする

< 施策の柱 >

- I. 安全・安心に対する信頼の強化
- II. 外部環境の変化を踏まえた受入体制の充実
- III. 旅行者の利便性・快適性の向上

< 施策の内容 >

I ① 新型コロナウイルス感染症対策の高度化

・旅行者のみならず、従事者にとっても安全・安心な環境を提供する
グリーン・ゾーン認証に基づく新型コロナ変異株対策の徹底と、宿泊施設における「グリーン・ゾーン上位認証制度」による国際的な信用の獲得

I ② 本県の強み（都市部近接性、豊かな文化・自然・食など）を活用した滞在コンテンツの充実

・本県独自の文化や豊富な自然、クオリティが高い食材などを活用した、長時間の滞在を促す観光コンテンツの充実
・幅広い関係者と連携した、新たなスタイルの旅行を受け入れる環境づくり

II ② 滞在コンテンツをつなぐ地域間周遊の促進

・各地域における四季折々の滞在コンテンツを複数体験できる機会の拡大
・観光客の多様なこだわりを満たす地域の魅力に関する情報の充実と多言語での発信

③ 上質なサービスを求める観光客の誘客に向けた推進力の強化

・高品質な体験（美食やアクティビティなど）の提供を目的とした事業者ネットワークの構築や、地域一体となった観光客の受入れを牽引できる地域リーダーの育成、従業員などが高いモチベーションの中で働ける環境づくり

III ① 新たなサービスの創出

・日本遺産など、本県に点在する魅力的な観光資源へのアクセス利便性の向上を実現する観光サービス「やまなし観光Maas」の整備
・本県での旅行に観光客が期待する「こだわり」に対応した「旅マエ」「旅ナカ」における効果的な情報発信の推進

やまなし観光推進計画 計画期間 R1~R4

観光推進の視点

観光産業の高付加価値化により、県経済の第2の柱へ

観光消費額増加

- 旅行者の満足度向上
- 滞在時間の延伸
- 地域資源の磨き上げ

地域経済への波及拡大

- 地場産品の観光活用
- 他産業との連携強化

観光産業の収益力向上

- データに基づく観光の推進
- 観光事業者の生産性向上
- 観光人材の確保・育成・定着

観光振興戦略（施策の展開）

I 受入環境の整備

（重点的な取組）

- ① 県民主役のおもてなしの推進
- ② 美しい景観づくりの推進
- ③ 地域資源の保全、磨き上げ
- ④ 外国人旅行者の受入環境整備
- ⑤ 旅行者の安全性、利便性及び快適性の確保

II 地域資源の活用

（重点的な取組）

- ① 着地型観光・ナイトタイムエコノミー等の推進
- ② 富裕層を取り込む観光メニューの充実
- ③ 県産品を活用したツーリズムの推進
- ④ 文化・スポーツなどを活用したツーリズムの推進
- ⑤ 国立公園等を含む山岳観光の推進

III 魅力が伝わる情報発信

（重点的な取組）

- ① 情報のデジタルシフトの推進
- ② ターゲットを意識した情報発信
- ③ 国際観光プロモーションの展開
- ④ 国際交流の推進

IV 観光産業の活性化

（重点的な取組）

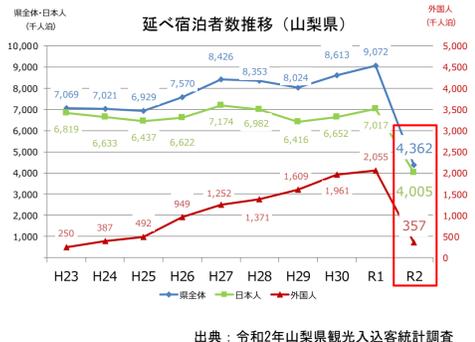
- ① 観光産業の生産性の向上
- ② 観光人材の育成・確保・定着支援
- ③ 他産業と連携した経済波及効果の拡大
- ④ 冬季観光の活性化などによる安定雇用促進
- ⑤ 文化・スポーツの観光活用による産業活性化
- ⑥ 国立公園等の観光活用による産業活性化

コロナの影響

○令和2年本県観光の状況
観光入込客数は対前年比48.7%、
観光消費額は対前年比64.1%と
大幅に減少

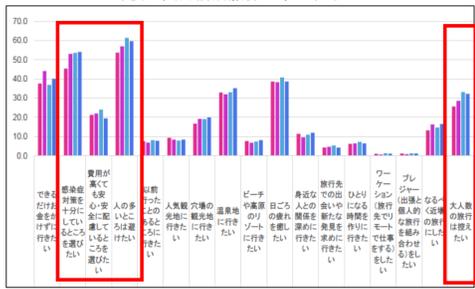


○訪日外国人観光客が大幅に減少
増加が著しかった訪日外国人の
延べ宿泊者数は対前年比17.4%



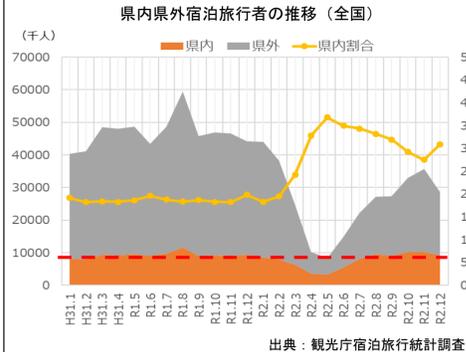
旅行者ニーズの変化

新たな生活様式の定着により、
旅行者ニーズは感染症対策や
密回避などを重視
今後の国内宿泊旅行で希望すること

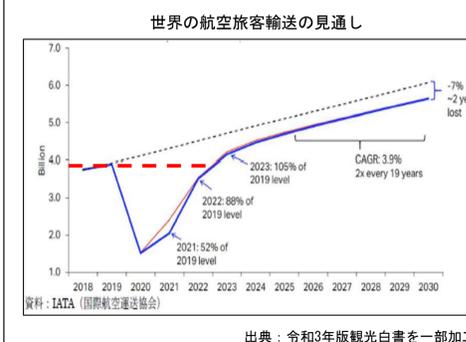


今後に向けた課題

○国内需要の取込強化
コロナ禍でも比較的安定している
県内旅行をはじめとした国内需要
の積極的な取り込み



○インバウンド回復への備え
今後予想されるインバウンド
の回復に備えた取り組み



新たな旅行形態への対応

近隣旅行やワーケーションなど、
新たな旅行形態への対応

